



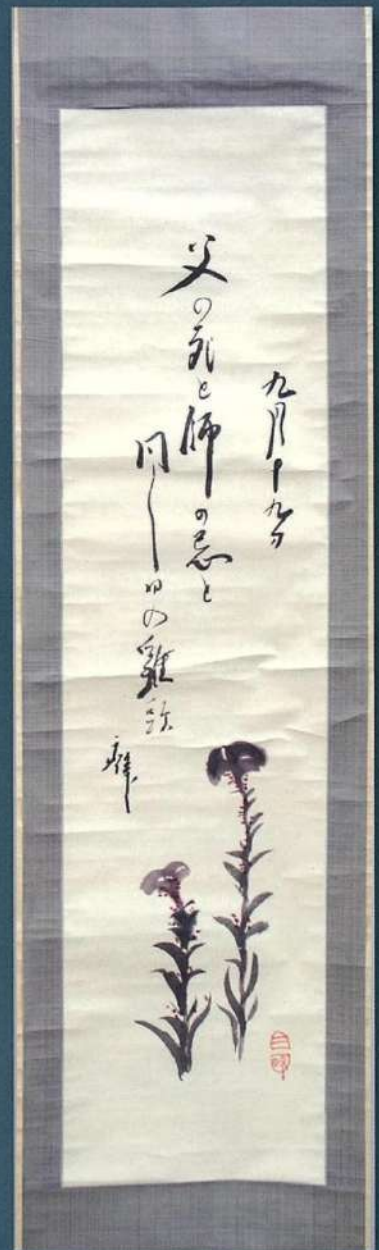
色紙「水に蔵うつりて若葉と家」と



短冊「仰げば樹樹の芽の日の香うづまいて」



色紙「熱帯植物の葉ひろい初夏」



画賛幅「父の死と師の忌と同日の雛頭」

さいたま文学館では、平成9年の開館以来、埼玉ゆかりの文学者を中心とした文学資料の収集に努めており、その数は現在17万点を超えています。こうした資料収集の成果を多くの皆様に知っていただくことを目的に、さいたま文学館では例年収蔵品展を開催してきました。

今回の収蔵品展では、当館の収蔵品の中から岡本癖三酔の俳画を特集します。岡本癖三酔は正岡子規の門弟で、同じく子規の門弟であった幸手出身の俳人・中野三允と大変親しい間柄でした。当館では「中野三允コレクション」として中野三允の旧蔵資料を多数収蔵しており、その中には癖三酔の作品が数多く含まれています。この中野三允の旧蔵資料を中心に、俳画を得意とし、俳句と絵画を融合した独自の表現をめざした癖三酔の個性あふれる作品をどうぞお楽しみください。

写真は展示している作品の一部です。
このほかにもさまざまな作品を展示しています。

